

## 良質茎を早期に確保し、適期に中干しを開始しましょう

### 1 ワキの防止

田植え後20日頃から、生わら施用田ではワキの発生が多くなります。特に、近年はワキの発生時期が早く、量も多い傾向となっています。

用水の更新（夜間落水）や、ひどい場合は間断灌水によりワキの防止を図り、根の健全化に努めることが、良質茎を早期に確保する上で大切です。

表1 ワキの発生程度とその対策

ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	対策	
			5月下旬	6月初旬
希	水田に足を踏み入れても気泡の発生が無い。	なし		
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生が見られる。	なし		
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	<b>用水の更新</b>	<b>用水の更新</b>
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	中耕と <b>用水の更新</b>	<b>用水の更新を繰り返す</b>
甚	晴天時、自然に気泡を発生し、音が聞こえる。または水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害、地上部黄化	中耕と <b>用水の更新を繰り返す</b>	<b>間断灌水</b>

### 2 中干し

#### (1) 中干し開始のめやす

中干しの開始時期が早いほど倒伏程度は軽くなります。

目標穂数の70～80%の茎数が確保されたら、直ちに落水し、中干しを開始します。

過剰生育や倒伏しやすいほ場では、目標穂数の60～70%の茎数が確保された時期、減水深が大きく雑草発生の多いほ場では目標穂数の80%の茎数が確保された時期がめやすになります。

本年は生育が進んでいます。茎数を確認して、遅れることなく中干しを開始して下さい。

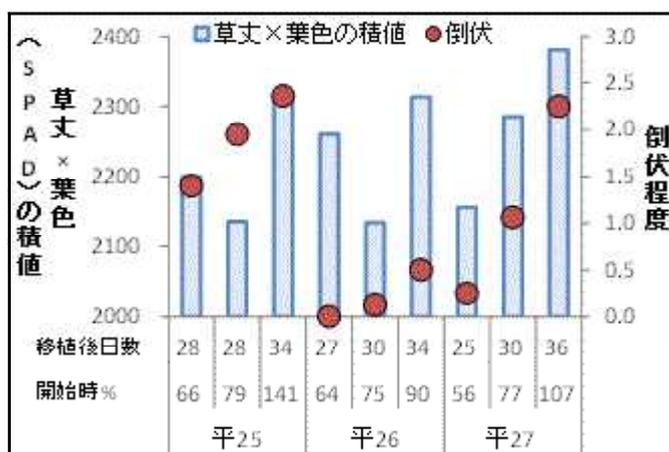


図1 幼穂形成期の生育量と成熟期の倒伏

注) 有機50%肥料栽培、平成25～27年、移植後日数は中干し開始時期を示す。開始時%は目標穂数(380本/m<sup>2</sup>)に対する中干し開始時の茎数の比率。



中干し開始適期のほ場  
(目標穂数の約80%の茎数)



適期を5日過ぎてほ場  
(目標穂数の約125%の茎数)

## (2) 中干しの効果

中干しの効果は、①無効茎の発生抑制、②下位節間の伸長抑制による倒伏軽減、③土壌への酸素供給による根の健全化、④収穫時のコンバイン走行を容易にする地固め等です。

中干しが遅れると、生育過剰や籾数過剰となり、倒伏や白未熟粒の発生が助長されます。

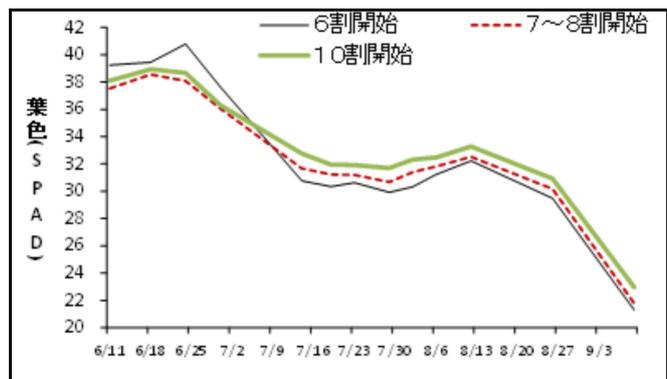


図2 中干し開始時期別の葉色の推移

(有機入り肥料栽培、F26・27年、作研)

※ 中干しが遅れると幼穂形成期以降の葉色がさめにくなる。

## (3) 中干しの程度と終了時期

中干しの程度は、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつくまで行います。

ただし、生育が過剰になりやすいほ場では、強めの中干しにより茎数過剰を防止することが大切です。

中干しは、遅くても出穂の1か月前までに終了します。



【中干しの強さは小ヒビ  
(幅1cm程度)が入る程度】

【経営普及課 農業革新支援担当 吉川 力】